

「科学哲学から見た言語理論の批判的検討 --言語科学の未来に向けて--」

山梨正明

「若い頃に、感動した言語学の理論も、歳とともに色あせてみえる場合がある。今、感銘を受けている理論もいずれは色あせ、やがては廃虚と化していく運命にあるのかも知れない。ある瞬間、これ以外の科学観、人間観などあり得ないと惚れ込んだパラダイムでさえ、次の時代には、新たなパラダイムがそれにとって代わっていくのかも知れない。しかし、新しいパラダイムがつねにより正しい学問観、言語観に通じていくとはかぎらない。また、ある学問の世界において、制度化され、一定の期間にわたって存続している（ように見える）理論ないしはパラダイムが、かならずしも経験的に正しい方向にむかって進展しているとはかぎらない。制度的には存続し、理論の修正・改訂が繰り返されていても、実質的には経験事実から遊離し、閉塞状態に陥っていく学問が多々存在しているという事実は、過去の歴史からも学ぶことができる。」（山梨 2000: pp. iv-v）

I. 科学哲学的視点

A. パラダイム (Paradigm)

- (i) 語型変化を示す代表的な事例（範例）
- (ii) 科学活動を支配する思考法、科学観 (Kuhn 1962:10)
[Cf. 専門母型 (Disciplinary Matrix)。 (Kuhn 1970:182)]
- (iii) ある時代のものの見方、思考法 (◀社会学的規定)

B. 科学理論の変遷

＜前科学＞→＜パラダイムの成立（通常科学の開始）＞
→＜変則事例の増大、有力な対抗パラダイムの登場による危機＞
→＜科学革命によるパラダイム交代＞→＜新しい科学の登場＞

C. 理論負荷性 (Theory-Ladenness)

観察事実、データに対する理論や知識の認識論的先行性
(Hanson 1958:19)

D. 科学研究における妥当性の基準

予測性、包括性、実証性、単純性、等
(Cf. エレガンス、完全性、経済性、等)

II. 認知科学の展開

A. 初期の認知科学

記号・計算主義的アプローチ モジュール的アプローチ

B. 現在の認知科学

身体性／アフォーダンス的アプローチ コネクショニズム／PDP 的アプローチ
脳科学的／ニューラルネット的アプローチ

第1期：記号主義的、計算主義的な認知科学 第2期：脳科学的、コネクショニスト的な認知科学 第3期：エコロジー的、環境・身体論的な認知科学
--

表1 (山梨 2000:265)

III. 理論言語学の変遷

<構造言語学>

フィジカリズム 帰納主義／行動主義 分析レベルの厳密な区分 厳密な操作手順

ボトムアップ的アプローチ

<生成文法理論>

メンタリズム 演繹主義／公理主義 モジュール的アプローチ 記号計算主義

トップダウン的アプローチ

A. 構造言語学 → B. 生成文法 → C. 認知言語学	
<構造主義-1>	<認知主義-1>
<構造主義-2>	<認知主義-2>

表 2

<構造言語学>

A. 反メンタルリズム (anti-mentalism)

直接観察できない内観、内省と心的過程にかかわる要因を研究対象から排除。

B. 機械主義 (mechanism)／物理主義 (physicalism))

言語の記述・分析に際し、物理的、客観的に観察可能な対象のみを研究の対象とし、言語研究が科学として確立する方向を示す。

C. 分類学的言語学 (taxonomic linguistics))

直接観察できる言語現象の分割(segmentation)、分類(classification)を重視。具体的な言語資料の観察と記述から出発する。

<生成文法理論>

A. メンタリズム (mentalism)

母語話者の言語直観、内観を重視。具体的な言語データとしての外在的言語に対し、人間の脳に内在する内在的な言語を、言語学の解明の第一目標にする。

B. モジュール的アプローチ (modular approach)

人という生物種に固有な言語機能が脳内に存在すると仮定される。他の認知システムとは独立したモジュール (心的器官) としての言語機能が脳に存在すると仮定する。

C. 記号計算主義 (symbol-based computationalism)

無限の記号列を規定する有限の規則の集合としての文法。

文法のモデル：有限の規則の集合からなる計算体系が、再帰的に働き、無限の文を生成するモデル。

<反-生成文法理論：生成意味論の研究プログラム>

A. 言語的知識と言語外的な知識の区分は不可能である。

B. 辞書の知識と百科事典的知識の間に絶対的な線を引くことはできない。

C. 統語部門は意味部門によって解釈的に規定されるのではなく、後者から前者へと生成的に規定される。

D. 文法は、意味的な要因や語用論的な要因から独立したモジュールとしては規定できない。

E. 文法にかかわる現象は、意味的な要因や語用論的な要因によって動機づけられている。

F. 文法にかかわる現象は、日常言語の論理構造、推論、発話の力、会話の含意、等に関わる自然論理 (natural logic) と切り離して研究することは不可能である。

G. 文法に課される統語的な制約のかなりの部分は、意味と運用にかかわる制約から予測される。

- H. 言語現象は、形式と意味のいずれのレベルの制約であれ、社会・文化的な機能に関わる要因によって動機づけられている。
- I. 文法カテゴリーとこれにかかわる言語現象はファジー(fuzzy)であり、連続階層体(squish)を形成しており、絶対的な境界にもとづく規定は不可能である。
- J. 言語現象の規定に導入される記述・説明項は、形式的で恣意的な理論仮構物ではなく、記号系の外からの経験的な要因によって動機づけられていなければならない。

(山梨 2000:253-254)

IV. 生成意味論から認知言語学へ！

<生成パラダイム内からの言語革命>

(生成意味論から認知言語学への脱構築)

生成意味論 (生成パラダイムの中での研究プログラム)

初期生成意味論の内部からの自己批判

抽象的意味表示

派生制約 (グローバル派生制約、派生間制約)

モデル解釈的意味論 語彙分解／意味原素による規定

<生成意味論：<生成的-衣>を脱ぎ捨てる！>

[(但し) 生成意味論の研究プログラムの以下の主張は、継承！]

(Don't Throw Out the Baby with the Bath Water!)

- A. 言語的知識と言語外的な知識の区分は不可能である。
- B. 辞書的知識と百科事典的知識の間に絶対的な線を引くことはできない。
- C. 文法は、意味的な要因や語用論的な要因から独立したモジュールとしては規定できない。
- D. 文法にかかわる現象は、意味的な要因や語用論的な要因によって動機づけられている。
- E. 文法に課される統語的な制約のかなりの部分は、意味と運用にかかわる制約から予測される。
- F. 文法カテゴリーとこれにかかわる言語現象はファジー(fuzzy)であり、連続階層体(squish)を形成しており、絶対的な境界にもとづく規定は不可能である。
- G. 言語現象の規定に導入される記述・説明項は、形式的で恣意的な理論仮構物ではなく、記号系の外からの経験的な要因によって動機づけられていなければならない。

(山梨 2000:6.4節)

Cognitive grammar ... has developed gradually over a number of years, evolving from generative semantics ... I view cognitive grammar as an updated version of generative semantics.

(Lakoff 1987: 582)

「生成意味論から認知言語学への研究プログラムの継承という視点からみた場合、言語現象の分析に際し、この両者の研究プログラムに一貫している方向性をみてとることができる。それは、言葉の意味の根源としての言語主体の認知能力と運用能力から、形式と構造の側面をふくむ言語現象の全体を、いわば認知的、運用的な動機づけに裏うちされた発現系として創発的に規定していくという一貫した方向性であるといえる。」

(山梨 2000: 253-254)

<生成意味論のレガシー／遺産 (➡認知言語学)>

生成意味論の研究プログラムにおいて研究された以下の知見は、認知言語学の中心的な研究テーマとして継承されている。

- A. 言語のゲシュタルト性 [e.g. G. Lakoff (1977)]
- B. スクイッシュ [e.g. Ross (1972, 1973, 1974)]
- C. ファジーロジック [e.g. G. Lakoff (1972b, 1973)]
- D. フレーム概念 [e.g. Fillmore (1968)]
- E. 文法の相対性 [e.g. G. Lakoff (1972)]

認知言語学の研究プログラムへの展開

- A. ➡ ゲシュタルト的文法観
- B. /C. ➡ カテゴリーのグレイディエンス
- D. ➡ フレーム意味論
- E. ➡ 文法的判断の相対性

語用論、社会言語学、自然論理、等の研究への展開

遂行分析 [e.g. Ross (1970), R. Lakoff (1968), Sadock (1974)]

間接的発話行為 [e.g. G. Lakoff (1971b)]

会話の含意／語用論的推論 [e.g. Gordon and Lakoff (1975), G. Lakoff (1972a)]

自然論理 [e.g. Horn (1989), G. Lakoff (1971a, 1972a), McCawley (1972, 1981)]

言語の社会性／ポライトネス [e.g. R. Lakoff (1972, 1973)]

フェミニズム言語学 [e.g. R. Lakoff (1975)]

V. 認知言語学のパラダイム

記号的文法観 経験基盤主義 用法基盤モデル

ボトムアップ的アプローチ 非線形的アプローチ

コネクショニズム／ニューラルネットワーク的文法観

事実の限定的予測性 創発性／身体性 エコロジー的文法観

A. 認知能力にかかわる要因

{イメージラリー、焦点化、図／地の分化・反転、
前景化／背景化、スキミング、イメージ形成、
スキーマ化、視点の移動／変換、参照点能力、etc.}

B. 身体化(Embodiment)、主観性(Subjectivity)、グラウンド化(Grounding), etc.

C. 経験基盤主義：{運動感覚、五感、空間認知、アフォーダンス、etc.}

<Three Commitments in CL>

The Cognitive Reality Commitment: An adequate theory of concepts and reason must provide an account of mind that is cognitively and neutrally realistic.

The Convergent Evidence Commitment: An adequate theory of concepts and reason must be committed to the search for converging evidence from as many sources as possible.

The Generalization and Comprehensiveness Commitment: An adequate theory must provide empirical generalizations over the widest possible range of phenomena.

(Lakoff and Johnson 1999: 79-80)

<言語観、文法観>

A. A language comprises an enormous inventory of conventional linguistic units, all abstracted from usage events. (Langacker 2008: 221)

B. ... we can describe a language as a structured inventory of conventional linguistic units. (ibid.: 222)

C. ... grammar and lexicon form a continuum residing exclusively in assemblies of symbolic structures. Constructions are symbolic assemblies. The objective of grammatical analysis is to describe such assemblies in clear and precise detail. (ibid.: 161)

D. ... grammar is not distinct from semantics, but rather incorporates semantics as one of its two poles. (Langacker 2009: 1)

E. Grammatical structure is based on conventional imagery, which reflects our ability to construe a conceived situation in alternate ways. The full conceptual or semantic value of a conceived situation is a function of not only its content (to the extent that one can speak of content apart from construal), but also how we structure this content with respect to such matters as attention, selection, figure/ground organization, viewpoint, and level of schematicity.

(Langacker 1987: 138)

<言語能力の根源：認知能力、運用能力>

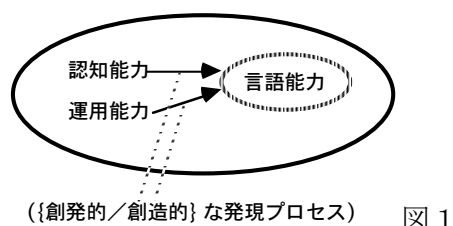


図 1

言語能力は、人間の進化における単なる知性の産物ではなく、生物一般の感覚-運動的な身体的経験に根ざす認知能力と運用の能力を不可欠の前提としている。この種の能力が、言語能力の根源的な基盤として日常言語の発現を支えている。

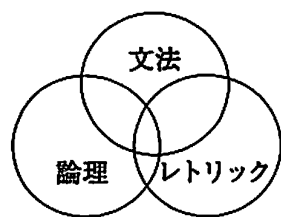


図 2

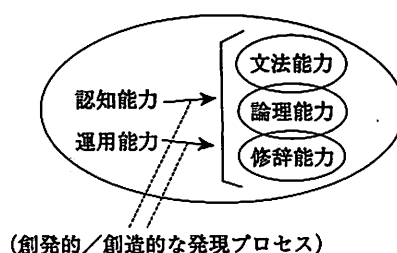


図 3

<個人的研究歴>

- [文法]：山梨正明『認知文法論』（ひつじ書房，1995）
 -----『認知構文論』（大修館書店，2009）
 [論理]：-----『推論と照応』（くろしお出版，2000）
 -----『ことばの認知空間』（開拓社，2004）
 [レトリック]：-----『比喩と理解』（東京大学出版会，1988）
 (Cf. [語用論]：-----『発話行為』（大修館書店，1986）)
 [意味論]：-----『認知意味論研究』（研究社，2012）

表 3

<認知文法：（身体論的言語観）>

[Body in the Mind]

- A. Because our concepts and reason both derive from, and make use of, the sensorimotor system, the mind is not separate from or independent of the body. Therefore, classical faculty psychology is incorrect. (Lakoff and Johnson 1999: 555)
- B. Meaning arises through the body and brain., not via the disembodied connection of symbols with the world (or a set-theoretic model of it). The embodiment of concepts plus the existence of conceptual metaphor are inconsistent with the classical correspondence theory of truth. (ibid: 495)
- C. The embodied-mind hypothesis ... radically undercuts the *perception/conception* distinction. In an embodied mind, it is conceivable that the same neural system in perception (or in bodily movement) plays a central role in conception. (ibid.:37-38)
- D. Our understanding, I shall argue, involves many preconceptual and nonpropositional structures of experience (such as image schemata) that can be metaphorically projected and propositionally elaborated to constitute our network of meanings. (Johnson 1987: xvi)
- E. An image schema is a recurring, dynamic pattern of our perceptual interactions and motor programs that gives coherence and structure to our experience. (ibid.: xiv)

[Coding and Construal]

Coding and construal are closely interdependent. How a situation is construed determines whether a particular linguistic structure is appropriate to code it. Conversely, a linguistic structure embodies conventional imagery and thus imposes a certain construal on the situation it codes.

(Langacker 1991: 294)

[Construal and Imagery]

Grammatical structure is based on conventional imagery, which reflects our ability to construe a conceived situation in alternate ways.

(Langacker 1987: 138)

<認知言語学の研究プログラムの方向性>

「言語主体の身体性を反映する認知能力（言語主体の外部世界の解釈にかかわる経験的な基盤を反映する認知能力）によって動機づけられた記述項、説明項によって規定していく。」

(山梨 2000: 14)

「運用能力をふくむ言葉の根源に存在する主体の認知能力を記述・説明の基盤として、形式から意味にわたる言語現象の全体を、身体的な動機づけを背景とするダイナミックな発現系として創発的に規定していく。」

(ibid.: 14)

<イメージ文法：(身体論的言語観)>
(イメージ表示)

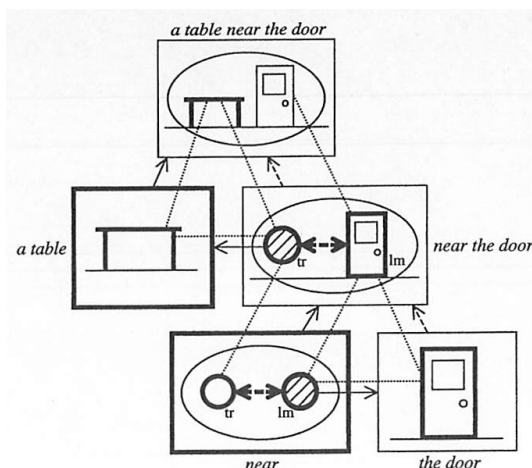


図 4 (Langacker 2008: 203)

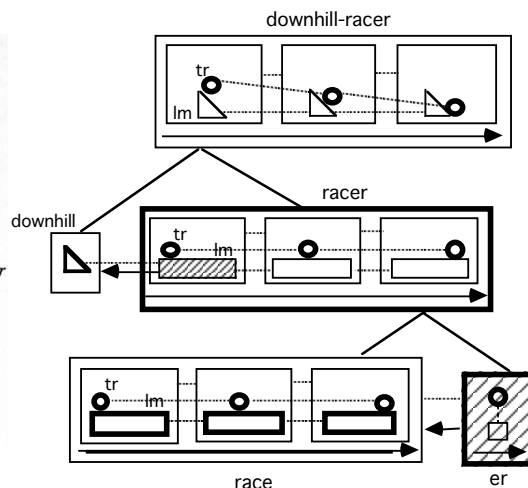


図 5 (山梨 2000: 53)

<The Spatialization of Form Hypothesis>

[... the SFH requires a metaphorical mapping from physical space into a "conceptual space."]

- Categories (in general) are understood in terms of CONTAINER schemas.
 - Hierarchical structure is understood in terms of PART-WHOLE schemas and UP-DOWN schemas.
 - Relational structure is understood in terms of LINK schemas.
 - Radial structure in categories is understood in terms of CENTER-PERIPHERY schemas.
 - Foreground-background structure is understood in terms of FRONT-BACK schemas.
 - Linear quantity scales are understood in terms of UP-DOWN schemas and LINEAR ORDER schemas.
- (Lakoff 1987: 283)

(Cf. 句構造表示)

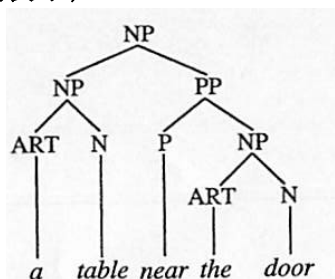


図 6 (Langacker 2008: 206)

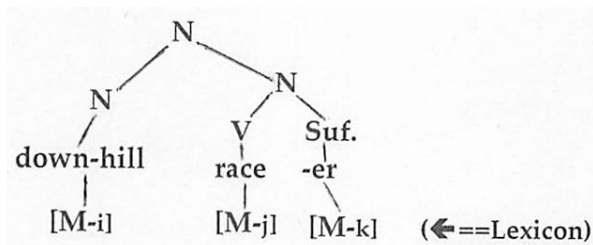


図 7

<Structure vs. Mapping>

In the conceptual system, there are four types of cognitive models:

<Propositional, Image-Schematic> & <Metaphoric, Metonymic>

A. <Propositional and Image-Schematic Models>: [characterize structure]

B. <Metaphoric and Metonymic Models>: [characterize mappings that make use of structural models]
(Lakoff 1987: 154)

VI. 生成文法のアプローチ

<生成文法の言語観、文法観>

- The grammar of L will ... be a device that generates all of the grammatical sequences of L and none of the ungrammatical ones. (Chomsky 1957: 13)
- Grammar is best formulated as a self-contained study independent of semantics. (ibid.: 106)
- ... a language L is a "rule system" of a kind: namely, the rules of L are the principles of UG as parameterized for L. (Chomsky 1995: 129)
- ... any theory of language must include some sort of lexicon, the repository of all (idiosyncratic) properties of particular lexical items. (ibid: 30)

統語論の自律性 客観主義 強い生得主義 普遍文法仮説 モジュール的言語観
 代数学的文法観 記号・計算主義 演繹主義／公理主義
 文法ショーヴィニズム／シンタクスショーヴィニズム
 線形的アプローチ 還元主義的アプローチ 非-統計的アプローチ
 過剰生成／過少生成の問題 構成性原理の限界

(生成文法のファラシー)

A. 二分法的区分のカテゴリカル・ファラシー

言語能力 (Linguistic Competence) / 言語運用 (Linguistic performance) の区分
 内的言語 (I-Language) / 「外的言語 (E-Language)」の区分
 文法性 (Grammaticality) と容認性 (Acceptability) の区分
 文法 (Grammar) / 辞書 (Lexicon) の区分

B. ルール／リスト・ファラシー

文法と辞書の区分

(予測できる現象は規則で規定し、予測できない現象はリストアップする)

<Rule/List Fallacy>: [... the assumption, on grounds on simplicity, that particular statements (i.e. lists) must be excised from the grammar of a language if general statements (i.e. rules) that subsume them can be established. (Langacker: 1987: 29)

C. 閉じた記号系としての言語研究

- The grammar of L will ... be a device that generates all of the grammatical sequences of L and none of the ungrammatical ones. (Chomsky 1957: 13)
- Grammar is best formulated as a self-contained study independent of semantics. (ibid.: 106)
- A theory of meaning: an algorithm that connects syntactic structures with mental representations. Meanings are expressions of Markerese. A theory of meaning for language L connects the syntactic structures of L with their meanings. (Markerese Translation). (Cf. Katz and Fodor 1963)

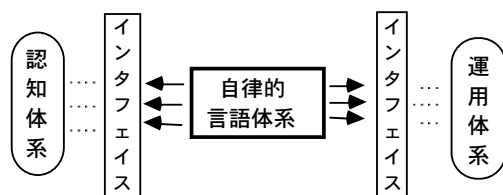


図 8

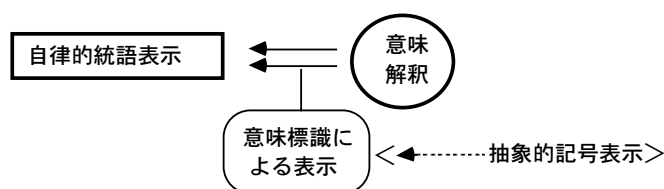


図 9

D. 生成意味論、モデル解釈意味論からの批判

- Semantics with no treatment of truth conditions is not semantics. (Lewis 1972 : 169)
 Semantic markers are *symbols*: items in the vocabulary of an artificial language we may call *Semantic Markerese*. (ibid.)

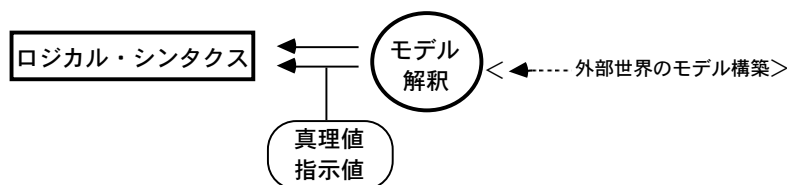


図 10

- The point to be borne in mind is that grammatical elements, like phonological elements, need external motivation. Generative semantics has claimed that the human conceptual system, as clarified by the study of natural logic, provides such motivation. (Lakoff 1972: 86)
- ... grammar is not distinct from semantics, but rather incorporates semantics as one of its two poles. (Langacker 2009: 1)

d. [The Content Requirement]:

CG is highly restrictive owing to the content requirement. The elements permitted in a linguistic description are limited to:

- (i) semantic, phonological, and symbolic structures that actually occur as (parts of) expressions;
- (ii) schematizations of permitted structures; and
- (iii) categorizing relationships between permitted structures.

(Langacker 2009: 2-3)

E. 構成性原理の問題

(意味のゲシュタルト的変容)

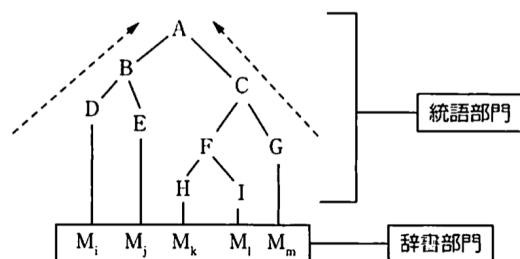


図 11

(a)	(b)
AB AB X	AB AB Y
豚の足 牛の舌 馬の肉 鳥の肉 豚の肉 羊の肉	豚足(とんそく) 牛舌(ぎゅうたん) 馬肉(ばにく) 鳥肉 豚肉 マトン

表 3 (山梨 2000:246)

<部分の全体的規定性>

「個々の構成要素を超える全体は、構成要素の単純な結合ではなく、…むしろ全体こそが部分の前提となることを意味する。換言するならば、個々の要素は全体に埋め込まれている以上、単なる自律的な要素ではなく、ゲシュタルトを構成する全体により規定される部分として有機的に機能することを意味する。」

(山梨 2009: 14)

F. 言語観の問題

<理想化 (Idealization) : 抽象体としての言語 ◀生成文法>

Linguistic theory is concerned primarily with an ideal speaker-listener, in a completely homogeneous speech-community, who knows its language perfectly and is unaffected by such grammatically irrelevant conditions as memory limitations, distractions, shifts of attention and interest, and errors (random or characteristic) in applying his knowledge of the language in actual performance.

(Chomsky 1965: 3)

A grammar of a language purports to be a description of the ideal speaker-hearer's intrinsic competence.

(ibid.: 4)

「このアプローチの限界は、一見、標準的なデータとみられる言語事実の領域にたいして仮定される規則（あるいは、一見、コアとみなされる言語表現にたいして仮定される規則）の予測性にある。もう一つの問題は、いわゆる言語能力を、柔軟なコミュニケーションの運用能力や認知能力から切り離している点にある。この後者の視点からみるならば、規則それ自体も、根源的にコミュニケーションの能力や認知能力から問い直していく必要がある。」

(山梨 2000: 256)

「一見、領域固有的に分化し、モジュール的に安定しているようにみえる言葉の世界は、記号の発現と変容のダイナミズムのなかにみられるカテゴリー化されたゆらぎの断面としての世界にすぎない。」

(山梨 2000: 266)

<用法基盤からみた言語 ◀認知言語学>

A language comprises an enormous inventory of conventional linguistic units, all abstracted from usage events.

(Langacker 2008: 221)

... we can describe a language as a structured inventory of conventional linguistic units.

(ibid.: 222)

... grammar and lexicon form a continuum residing exclusively in assemblies of symbolic structures.

Constructions are symbolic assemblies. The objective of grammatical analysis is to describe such assemblies in clear and precise detail. (ibid.: 161)

<言語の創造性>

(規則支配の創造性 vs. 規則改変の創造性)

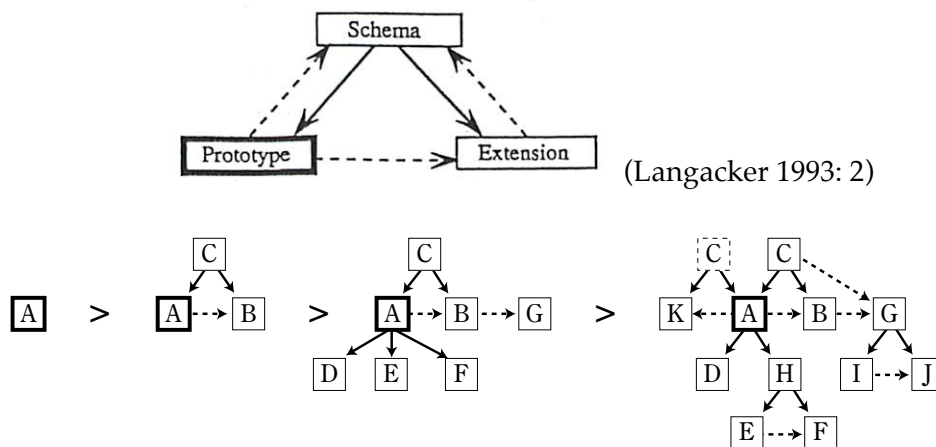
「言語の創造性は、生成文法流の閉じた規則支配の創造性ではなく、規則の解体・変容のダイナミズムによって特徴づけられる開かれた創造性として見直されることになる。」

(山梨 2000: 256)

「認知言語学的のアプローチでは、… 実際の言語使用の場から立ち現われるパターン（ないしはスキーマ）の一部として規則をとらえ直していく。この点からみるならば、規則がはじめから存在するのではなく、言語使用の場において規則が限定的につくり出され、状況によっては（例えば、創造的なコミュニケーションの文脈では）規則自体が改変され変容していくことになる。」 (ibid.)

<プロトタイプ理論、動的ネットワークモデル>

... the “outward” growth of a network by extensions from a prototype tends to induce its “upward” growth via the extraction of higher-level schemas. (Langacker 1999: 102)



(Langacker 1993: 2)

図 12 (Langacker 1990: 271)

Category membership will be motivated by ... family resemblances to prototypical members.

(Lakoff 1987: 65)

... the central categories of the language are characterized by the *central principles* linking form and content. ... noncentral categories are “located” in the grammatical system via relations to central (or more central) categories.

(ibid.: 492)

<用法基盤モデル (Usage-Based Model: UBM)>

In a usage-based model, “substantial importance is given to the actual use of the linguistic system and a speaker’s knowledge of this use; the grammar is held responsible for a speaker’s knowledge of the full range of linguistic conventions (Langacker 1999: 91)

The “maximalist”, “non-reductive”, “bottom-up” nature of CG contrasts with the “minimalist”, “reductive”, “top-down” spirit of generative theory (ibid.)

- A. 質的分析だけでなく、事例のトークン頻度、タイプ頻度、等の量的分析から一般化を試みる。
- B. 典型事例と周辺事例を、個々の言語使用者の変異、ゆらぎ、等を含めて相対的に分析する。
- C. 形式文法のトップダウン的アプローチではなく、言語使用に基づくボトムアップのアプローチを重視する。
- D. 経験基盤主義の観点から、言語的知識をダイナミックな言語運用の発現として創発的に規定していく。

(山梨 2012a: 54)

Cf. (生成文法の言語観、文法観)

Evidently, one’s ability to produce and recognize grammatical utterances is not based on notions of statistical approximation and the like. (Chomsky 1957: 16)

I think that we are forced to conclude that grammar is autonomous and independent of meaning, and that probabilistic models give no particular insights into some of the basic problems of syntactic structure. (ibid.: 55)

F. 言語習得の問題（生得的言語習得論の問題）

<生成文法の言語習得説>

- ・ 人間の脳内に＜生物学的与件＞として与えられている＜言語機能＞が、一次的言語データによる外部刺激によって母国語話者の言語能力に成長する過程が言語習得であると主張する。
- ・ 言語機能の初期状態（普遍文法：Universal Grammar/UG）が成長して安定状態に至ったものが母語話者の文法であると仮定する。

<UG の言語習得装置> [LAD=Language Acquisition Device]

Primary

Linguistic Data =====> [LAD] =====> **Grammar**

Data (cf. Chomsky 1965: 32)

This device must search through the set of possible hypotheses G1, G2, ... and must select grammars that are compatible with the primary linguistic data (ibid.: 32)

<瞬時的言語習得モデル>

What I am describing is an idealization in which only the moment of acquisition of the correct grammar is considered. (ibid.: 202)

[n. b. この習得モデルによれば、第一次言語データとしての経験と言語習得装置の相互作用の瞬時的な結果として大人の文法が獲得されるのであり、習得に必要な経験を取りこむ時間的な順序やタイミングは、獲得される文法の性質に何ら影響を与えないという前提にたっている。]

<刺激の貧困>の議論の貧困性！>

「プラトンの問題」

<問い>: かくも不完全で貧困な経験にもかかわらず、何故かくも複雑な知識が獲得されているのか？

<答え>: 普遍的な知識があらかじめ生得的に備わっているからである。

「ここで問題とされている言語習得の仮説は、ヒトという種の脳だけに普遍文法が存在するために、ヒトだけが他の類人猿をはじめとする動物とちがって言語の習得が可能となる、という論理を前提としている。これは、言語習得を可能とする原因を、他には考えられないという理由で、はじめから脳のなかになければならないとする論理である。この普遍文法の論理は、言語習得の不思議に直面して、ウサギ（習得を可能とする原因）をはじめから帽子（ヒトの脳）のなかに入れておく手品に似ている (cf. Deacon 1997: Ch. 4)。この点で、普遍文法の論理は、ハット・トリック(!?)の論理とも言える。」 (山梨 2000: 272)

<否定的証拠の議論の問題>

- ・ 「子供が過度の一般化や誤りを犯した場合、母親やまわりの話し手からのパラ言語的な情報やノンヴァーバルな情報（さらに母親やまわりの話し手の非言語的な反応）が否定的な証拠として直接的、間接的にフィードバックされることによって、過度の一般化や誤りが修正されていく状況も自然に予想される。したがって、言語情報の否定的な証拠が足りない（あるいは、欠如している）からといって、即、普遍文法の原理の存在を前提とするのはあまりにも短絡的な帰結と言わねばならない。」 (山梨 2000: 261)
- ・ 「実際の第一次言語としてのデータは、典型的な事例から拡張事例まで多様であり、また実際の習得に際しこの種の事例に接していく順序やタイミングは、言語発達の具体的なプロセスに大きな影響を与える。」 (ibid.: 272-273)
- ・ 「この仮説では、子供に提供される言語刺激を、具体的な統計データを示さないまま、概念的に不完全なものとしている。しかし、実際の母親から繰り返し与えられる言語データ (motherese) や子供をかこむ言語共同体から与えられる言語データは、その頻度と情報の余剰性からみて豊かな情報源となっている。」 (ibid.: 260)
- ・ 「言葉の習得の過程では、この種の言語情報と同時に、母親を中心とする共同体の人間との相互作用

用にかかわる経験（例えば、ジェスチャー、顔・目等の表情、雰囲気、身体感覚などから得られる非言語的な情報）、子供と大人の参加している具体的な場面、状況から得られる非言語的な情報が重要な役割をになっている。生成文法の「刺激の貧困」の仮説は、この種の豊かな情報源を考慮していない。（ibid.: 260）

- ・「生成文法の普遍文法の仮説の問題は、この古い行動主義の時代の一般的な学習のメカニズムを批判の対象として議論を進めている。」（ibid.: 272）

VII. 科学哲学的視点からの検討

言語学のある理論に基づく研究が制度的には存続していても、その言語理論の研究が閉塞的になり、経験事実の予測・説明の包括性が得られないまま研究が続けられている場合（例えば、問題の言語理論が、次の（A）～（D）の傾向を示す場合）には、その言語理論が前提とする研究プログラムに本質的な限界が認められることになる。

- （A）事実の予測・説明の広がりよりもフォーマリズムのテクニカルな変更と修正だけが続いている場合。
- （B）アプリオリに提示されるメタレベルの仮説と方法論が強すぎて、問題の言語理論の主張が実質的に反証不可能な状態に陥っている場合。
- （C）哲学的なメタレベルのテーゼ、仮説と実際の経験事実に関する予測と説明との間の実質的な隔たりが大きくなり過ぎている場合。
- （D）その言語理論が、言葉の科学の関連分野の研究から遊離し、その言語理論にたいし関連分野が実質的な知見を期待できなくなった場合。

（山梨 2002: 17）

<理論言語学における「概念的必然性」と「経験的必然性」>

理論言語学では、ある種の仮説や理論仮構物が提示されたり修正される場合、かならずしも経験的な証拠によらず、「理論内的な要請」（あるいは、「概念的必然性」）のもとに、問題の仮説や理論仮構物が提示されたり修正されるケースがよく見うけられる。この場合、その言語理論が前提とする基本的な仮説が経験的な基盤に根ざしているならば、その仮説を前提として導入される下位理論や理論仮構物の検証を試みていくことには科学的な意味がある。しかし、もしその言語理論が前提とする基本的な仮説が経験的な基盤に根ざしていない場合には、その仮説から派生される下位理論と理論仮構物は、経験事実を離れたその言語モデルにおける「理論内的な要請」、あるいはその言語モデルを理論的に定義する「概念的必然性」ととどまるものであり、その理論の言語科学としての検証は意味をなさないことになる。（山梨 2002: 16-17）

<概念的必然性の問題>

生成文法の枠組では、心的器官のメタファーを前提にして、言語を、心的に内在すると仮定される「内的言語（I-Language）」（Internalized-Language）と実際の発話の集合体としての「外的言語（E-Language）」（Externalized Language）に区分している。この区分は、... 言語能力と言語運用の二分的な区分と同様、生成文法の研究プログラムにおける「概念的必然性」（conceptual necessity）としての区分であり、研究対象の内在的な特質に由来する「経験的必然性」（empirical necessity）に基づく区分ではない（山梨 2000: 273）。

<科学における簡潔性、経済性の問題>

自然科学においては、一般に、仮定される規則、法則が簡潔で経済的であればあるほど、事実に関する予測性が高くなるという研究上の指針が暗黙のうちに認められる傾向にある。自然界は無駄のない、シンプルでエレガントな世界であるという近代科学（あるいは前-近代科学）からの確信と、物理学を中心とする自然科学の成果からみるならば、簡潔性、経済性の基準が自然科学における研究の指針とされる点は一応理解できる。

しかし、この種の基準の言語研究への適用の妥当性を判断するためには、言語現象と自然現象の本質的な相違、問題の言語理論の前提となっている言語観、文法観を慎重に検討する必要がある。まず、現象面からみた場合、言語現象は離散的な記号系によって特徴づけられる現象であり、この点で、物理現象をはじめとする自然現象とは本質的にことなる。したがって、自然科学における簡潔性、経済性の基準が、言語研究の一般化に適用できるとは短絡的には言えない。もう一つの本質的な問題は、（科学性

<言語理論の形骸化：ゲームとしての言語理論>

最近の理論言語学の研究、とくに演繹的、公理主義的な方法論を前提とする理論言語学の研究は、事実よりも一般的仮説と規則の設定が重視される傾向、新しい事実の発掘や記述よりも仮説、規則等に関するテクニカルな修正・改訂に関する議論が先行する傾向、仮説や規則、原理のステイプュレーションを重視し具体事例を無視していく傾向、言語事実の経験的な側面よりも論理の整合性を重視し過ぎる傾向、形式文法を中心とする抽象的な仮説から演繹的な説明法を指向するあまり、この方法論になじみにくい言語現象（とくに意味、運用等にかかわる言語現象）を無視する傾向、言語事実の適否に関する判断が、トップダウン的に仮定される規則や原理からのバイアスによって歪められる傾向が強まっている。

(山梨 2002: 24-25)

最近の生成文法の研究（とくに、極小主義を背景とするミニマリスト・プログラムの研究）は、この先験的な区分を前提として、具体的な言語事象、言語資料にかかわる外的言語の綿密な分析から次第に遊離し、いわゆる内的言語の知識を特徴づけるための理論仮構物（e. g. LF-表示/PF-表示、派生、素性照合、併合、スペル・アウト、素出力条件、等）を前提とする文法モデルのテクニカルな修正・改訂の研究が中心になっている。

(ibid.: 15)

<抽象的な理論仮構物の問題>

表層レベルの言語現象の分布関係の理由づけのために、抽象的な統語表示や概念構造を設定し、この抽象的な表示レベルからトップダウン的に表層レベルの言語現象の分布関係が予測されると主張する点にある。この場合、現象の説明（ないしは理由づけ）のために仮定される（理論仮構物としての）統語表示や概念構造が、経験事実による裏づけがなされないまま設定される場合がとくに問題になる。この線にそった理論言語学の研究では、抽象的な理論仮構物の設定によって、表層レベルの言語事実の分布関係の理由づけがなされたと主張されることがよくある。しかし、この種の理由づけと、自然科学の分野の実験に裏づけされた仮説による現象の経験的な予測・説明を、短絡的に、同じ意味での説明であると主張することには本質的な問題がある。

(ibid.: 20)

<記号計算主義の理論仮構物>

生成文法の言語観では、記号表示の経済性、派生操作の経済性などが問題とされるが、記号計算や派生といった理論的な仮構物にコミットしない言語理論においては、最初からこの種の簡潔性、経済性の基準や評価の尺度の問題は存在していない。この種の問題は、あくまで問題の言語理論を支配する言語観ないしはパラダイムから概念的に導出される理論上の問題であり、かならずしも言語事実から導出される経験上の問題とはことなる点に注意しなければならない。

(ibid.: 23)

<理論言語学の前提の矛盾>

認知言語学のパラダイムでは、生成文法の記号・計算主義は前提とされていない。また、文法は有限の規則によって無限の文を生成する計算システムといったトップダウン的な規則依存の文法観も前提とはされていない。認知言語学のアプローチでは、トップダウン的な規則によって可能な文を派生的に規定していくのではなく、むしろ主体の言語使用や言語習得の過程に注目するボトムアップ的なアプローチを重視する。このアプローチでは、具体的な事例の定着度、慣用度との関連でスキーマを抽出していくプロセスに注目し、このスキーマとの関連で他の具体事例の予測を行い、このスキーマの動的な拡張のプロセスを介して新しい事例を規定していくという、言語使用、言語運用を重視したアプローチをとっている。記号計算や派生といった理論仮構物にコミットしない認知言語学のパラダイムにおいては、簡潔性、経済性の基準や評価の尺度は、最初から問題にはされていない。... この種の基準と評価の尺度にかかわる問題は、あくまで問題の言語理論が前提としているパラダイムから概念的に導出される理論上の問題であり、かならずしも言語事実によって裏づけられた経験上の問題ではない点に注意する必要がある。

(山梨 2002: 23)

<生成文法のリサーチの内的矛盾／パラドックス>

生成文法のアプローチが解明の対象としているのは、言語の表層レベルに具現化している言語事象ではなく、理想的な母国語話者に内在すると仮定される抽象的な文法知識である。したがって、この文法理論における仮説（ないしは、これを構成する理論仮構物）の修正・改訂は、内的言語にかかわる事実

によって検証されなければならない。しかし、内的言語にかかわる知識は、直接的には観察不可能であり、実際に観察可能な言語事実は外的言語にかかわる事実である。したがって、実際の仮説、理論の修正・改訂の検証は、外的言語として具現化する言語現象に経験的な基盤を置かなければならない。しかし、生成文法理論の分析のターゲットは、内的言語に関する事実であり、外的言語として具現化する経験事実を検証（ないしは反証）の直接的な証拠とすることは不可能である。ここに、科学的なアプローチを前提としているはずの生成文法の研究のパラドックスが存在する。皮肉なことに、このパラドックス（ないしは内的矛盾）が、生成文法の理論的な修正・改訂の繰り返しを無限に可能にするとも言える。何故なら、仮に、ある言語学者が、この文法理論にたいし反例と考えられる言語事実を指摘したとしても、それは表層レベルにおける外的言語にかかわる事実であり、内的言語にかかわる事実ではないとして、その事実を無視することができるからである。（ibid. 15-16）

**There are more things in heaven and earth, Noam,
Than are dreamt of in your philosophy.
(Cf. *Hamlet*: Act 1, Scene 5, ll.166-167)**

「哲学におけるあなたの目的はなにか。---
ハエにハエとり壺からの出口を示してやること。」
(L. ヴィトゲンシュタイン『哲学探究』:309)

<参考文献：言語理論（構造言語学、生成文法、認知言語学）>

- Bloomfield, Leonard 1926. "A Set of Postulates for the Science of Language." *Language* 2: 153-164.
Bloomfield, Leonard 1933. *Language*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
Boas, Franz 1929. "Classification of American Indian Languages." *Language* 5: 1-7.
Bybee, Joan 2006a. *Frequency of Use and the Organization of Language*. Oxford: Oxford University Press.
Bybee, Joan L. and Paul Hopper (ed.) 2001. *Frequency and the Emergence of Linguistic Structure*.
Amsterdam: John Benjamins.
Chomsky, Noam 1957. *Syntactic Structures*. The Hague: Mouton.
Chomsky, Noam 1965. *Aspects of the Theory of Syntax*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
Chomsky, Noam 1966. *Cartesian Linguistics*. New York: Harper & Row.
Chomsky, Noam 1968. *Language and Mind*. New York: Harcourt, Brace & World.
Chomsky, Noam 1981. *Lectures on Government and Binding*. Dordrecht: Foris.
Chomsky, Noam 1982. *The Generative Enterprise*. Dordrecht: Foris.
Chomsky, Noam 1995. *The Minimalist Program*. Cambridge, MA: MIT Press.
Chomsky, Noam 2001. "Beyond Explanatory Adequacy." *MIT Occasional Papers in Linguistics*, 20: 1-28.
Croft, William. 2001. *Radical Construction Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
Croft, William, and D. Alan Cruse. 2004. *Cognitive Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
Fauconnier, Gilles. 1985. *Mental Spaces*. Cambridge, MA : MIT Press.
Fauconnier, Gilles, and Mark Turner. 2002. *The Way We Think*. New York: Basic Books.
Fillmore, Charles J. 1975. "An Alternative to Checklist Theories of Meaning." *BLS* 1: 123-131.
Fillmore, Charles J. 1977. "Scenes-and-Frame Semantics." Antonio. Zampoli (ed.) *Linguistic Structures Processing*, 55-81. Amsterdam : North-Holland.
Fodor, Jerry A.; & Katz, Jerrold J. (eds.) 1964. *The Structure of Language*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
Fries, Charles C. 1952. *The Structure of English*. New York: Harcourt, Brace & Co.
Gibbs, Raymond W. 1994. *The Poetics of Mind*. Cambridge: Cambridge University Press.
Goldberg, Adele E. 1995. *Construction*. Chicago: University of Chicago Press.
Givón, Talmy 1979. *On Understanding Grammar*. New York: Academic Press.
Harris, Zellig S. 1954. "Distributional Structure." *Word* 10 (2/3): 146-162.
Harris, Zellig S. 1957. "Co-occurrence and Transformation in Linguistic Structure." *Language* 33 (3): 283-340.
Heine, Bernd. 1997. *Cognitive Foundations of Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
Hockett, Charles F. 1958. *A Course in Modern Linguistics*. New York: Macmillan.
Johnson, Mark 1987. *The Body in the Mind*. Chicago: The University of Chicago Press.

- Johnson, Mark 1993. *Moral Imagination*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George 1987. *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: University of Chicago Press.
- Katz, Jerold J. 1972. *Semantic Theory*. New York: Harper and Row.
- Katz, Jerold J. and Jerry A. Fodor 1963. "The Structure of a Semantic Theory." *Language* 39: 170-210.
- Katz, Jerold J. and Paul M. Postal 1964. *An Integrated Theory of Linguistic Descriptions*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Lakoff, George 1993. "The Contemporary Theory of Metaphor." In Andrew Ortony (ed.) *Metaphor and Thought* (2nd Ed.), 202-251. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, George 1996. *Moral Politics*. Chicago: The University of Chicago.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1999. *Philosophy in the Flesh: The Embodied Mind and its Challenge to Western Thought*. New York: Basic Books.
- Langacker, Ronald W. 1979. "Grammar as Image." *Linguistic Notes from La Jolla* 6: 88--126.
- Langacker, Ronald W. 1982. "Space Grammar, Analysability, and the English Passive." *Language* 58: 22-80.
- Langacker, Ronald W. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar*. Vol.1, Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. 1990. *Concept, Image, and Symbol*. Berlin/New York: Walter de Gruyter.
- Langacker, Ronald W. 1991. *Foundations of Cognitive Grammar*. Vol.2, Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. 2000. *Grammar and Conceptualization*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Langacker, Ronald W. 2001. "Discourse in Cognitive Grammar", *Cognitive Linguistics* 12 (2): 143-188.
- Langacker, Ronald W. 2008. *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*, Oxford: Oxford University Press.
- Langacker, Ronald W. 2009. *Investigations in Cognitive Grammar*. New York/Berlin: Mouton de Gruyter.
- Lamb, Sydney M. 1966. *Outline of Stratificational Grammar*. Washington, D.C.: Georgetown University Press.
- Nida, Eugene A. 1946. *Morphology*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Nida, Eugene A. 1966. *A Synopsis of English Syntax*. The Hague: Mouton.
- Pike, Kenneth L. 1967. *Language in Relation to a Unified Theory of the Structure of Human Behavior*. The Hague: Mouton.
- Pike, Kenneth L. 1982. *Linguistic Concepts: An Introduction to Tagmemics*. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Sapir, Edward. 1921. *Language: An Introduction to the Study of Speech*. New York: Harcourt, Brace. & Co.
- Sapir, Edward. 1925. "The Sound Patterns in language." *Language* 1: 37-51.
- Saussure, Ferdinand de 1916. *Cours de linguistique générale*. Paris: Payot.
- Talmy, Leonard 1978. "Figure and Ground in Complex Sentences." in Joseph H. Greenberg (ed.) *Universals of Human Language 4 : Syntax*, 625-49. Stanford: Stanford University Press.
- Taylor, John R. 2002. *Cognitive Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- 山梨正明 1988.『比喩と理解』東京：東京大学出版会.
- 山梨正明 1992.『推論と照応』東京：くろしお出版.
- 山梨正明 1995.『認知文法論』東京：ひつじ書房.
- 山梨正明 1997.「自然言語における身体性 --言葉の根源と創造性の観点から」、『物性研究』(京都大学・基礎物理学研究所)、68 (5): 583-591.
- Yamanashi, Masa-aki 1998. "Some Issues in the Treatment of Irony and Related Tropes." in Robyn Carston et al. (eds.) *Relevance Theory: Applications and Implications*, 271-281. Amsterdam: John Benjamins.
- 山梨正明 1999.「言葉と意味の身体性--認知言語学からの眺望」、『現象学年報』(日本現象学会)、15: 7-21.
- Yamanashi, Masa-aki 2000. "Negative Inference, Space Construal, and Grammaticalization." in Laurence R. Horn et al. (eds.) *Studies on Negation and Polarity*, 243-254. Oxford: Oxford University Press.
- 山梨正明 2000.『認知言語学原理』東京：くろしお出版.
- Yamanashi, Masa-aki 2001. "Speech-Act Constructions, Illocutionary Forces, and Conventionality." in Daniel Vanderveken et al. (eds.) *Essays on Speech Act Theory*, 225-238. Amsterdam: John Benjamins.
- 山梨正明 2004.『ことばの認知空間』東京：開拓社.
- 山梨正明 2009a.『認知構文論—文法のゲシュタルト性』東京：大修館書店.
- 山梨正明 2009b.「認知語用論からみた文法・論理・レトリック」、『語用論研究』11: 61-97.
- Yamanashi, Masa-aki 2010. "Metaphorical Modes of Perception and Scanning." in Armin Burkhardt and Brigitte Nerlich (eds.) *Tropical Truth(s): The Epistemology of Metaphor and Other Tropes*, 157-175. Berlin/New York: Walter de Gruyter.
- 山梨正明 2012a.「認知言語学からみたコーパス言語学の展望」、『英語コーパス研究』、19: 43-66.
- 山梨正明 2012b.『認知意味論研究』東京：研究社.

< 参考文献：生成意味論 >

- Bach, Emmon and Robert T. Harms (eds.). 1968. *Universals in Linguistic Theory*. New York: Holt, Rinehart and Winston.
- Bach, E. 1968 "Nouns and Noun Phrases." Bach and Harms (eds.): 90-122.
- Bolinger, Dwight 1968. "Judgments of Grammaticality," *Lingua* 21: 34-40.
- Chafe, Wallace 1970. *The Meaning and the Structure of Language*. University of Chicago Press.
- Cole, Peter and Jerry Morgan (eds.). 1975. *Syntax and Semantics*. New York: Academic Press.
- Davidson, Donald and Gilbert Harman (eds.) *Semantics of Natural Language*. Dordrecht, Holland: Reidel.
- Fillmore, Charles J. 1968. "The Case for Case." in Bach and Harms (eds.): 1-88.
- Fillmore, Charles J. and D. Terence Langendoen (eds.). 1971. *Studies in Linguistic Semantics*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Gordon, David and George Lakoff. 1975. "Conversational Postulates." Cole & Morgan (eds.): 83-106.
- Green, Georgia. 1974. *Semantic and Syntactic Regularity*. Bloomington: Indiana University Press.
- Gruber, Jeffrey S. 1976. *Lexical Structures in Syntax and Semantics*. Amsterdam: North-Holland.
- Haiman, John 1980. "Dictionaries and Encyclopedias." *Lingua* 50: 329-357.
- Horn, Larry 1989. *A Natural History of Negation*. Chicago: University of Chicago Press.
- Lakoff, George 1971a. "The Role of Deduction in Grammar." Fillmore and Langendoen (eds.): 62-70.
- Lakoff, George 1971b. "On Generative Semantics." in Steinberg and Jakobovits (eds.): 232-296.
- Lakoff, George 1971c. "Presupposition and Relative Well-formedness." in Steinberg and Jakobovits (eds.): 329-340.
- Lakoff, George 1972a. "Linguistics and Natural Logic." In Davidson and Harman (eds.): 545-665.
- Lakoff, George. 1972b. "Hedges: A Study in Meaning Criteria and the Logic of Fuzzy Concepts." *CLS* 8: 183-228.
- Lakoff, George 1973. "Fuzzy Grammar and the Performance/Competence Terminology Game." *CLS* 9: 271-291.
- Lakoff, George 1976. "Toward Generative Semantics." In McCawley (ed.): 43-62.
- Lakoff, George 1977. "Linguistic Gestalts." *CLS* 13: 236-287.
- Lakoff, George and John R. Ross 1976. "Is Deep Structure Necessary?" in McCawley (ed.): 159-164.
- Lakoff, Robin 1968. *Abstract Syntax and Latin Complementation*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Lakoff, Robin 1972. "Language in Context." *Language* 48: 907-927.
- Lakoff, Robin 1973. "The Logic of Politeness: Or, Minding Your P's and Q's." *CLS* 9: 292-305.
- Lakoff, Robin T. 1975. *Language and Woman's Place*. New York: Harper & Row.
- Langacker, Ronald W. 1967. *Language and its Structure*. New York: Harcourt, Brace & World.
- Langacker, Ronald W. 1969. "On Pronominalization and the Chain of Command." in David A. Reibel and Sanford A. Schane (eds.) *Modern Studies in English*, 160-186. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.
- Langacker, Ronald W. 1975. "Functional Stratigraphy." in *CLS: Parasession on Functionalism*: 351-397.
- Langacker, Ronald W. 1976. "Semantic Representations and the Linguistic Relativity Hypothesis." *Foundations of Language* 14: 307-357.
- Levinson, Stephen C. 1983. *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- McCawley, James D. 1968. "The Role of Semantics in a Grammar." in Bach and Harms (eds.): 124-169.
- McCawley, James D. 1972. "A Program for Logic." In Davidson and Harman (eds.): 498-544.
- McCawley, James D. (ed.) 1976. *Notes from the Linguistic Underground*. (*Syntax and Semantics* 7). New York: Academic Press.
- McCawley, James D. 1980. "An Un-Syntax." in Edith A. Moravcsik and Jessica R. Wirth (eds.) *Syntax and Semantics*: 13, 167-193. New York: Academic Press.
- McCawley, James D. 1981. *Everything that Linguists Have Always Wanted to Know about Logic but Were Ashamed to Ask*. Chicago: University of Chicago Press.
- Morgan, Jerry 1969a. "On Arguing about Semantics." *Papers in Linguistics* 1: 49-70.
- Morgan, Jerry 1969b. "On the Treatment of Presupposition in Transformational Grammar." *CLS* 5: 167-77.
- Postal, Paul M. 1970. "On the Surface Verb 'Remind'." *Linguistic Inquiry* 1: 37-120.
- Postal, Paul M. 1971. *Crossover Phenomena*. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- Postal, Paul M. 1974. *On Raising*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Ross, John R. 1986. *Infinite Syntax*. Norwood, NJ: Ablex.
- Ross, John R. 1970. "On Declarative Sentences." in Rodney A. Jacobs and Peter S. Rosenbaum (eds.) *Readings in English Transformational Grammar*, 222-272, Waltham, Mass.: Ginn and Co.
- Ross, John R. 1972. "The Category Squish." in *CLS* 8: 316-328.
- Ross, John R. 1973. "A Fake NP Squish." In Charles J. Bailey and Roger Shuy (eds.), *New Ways of Analyzing Variation*, 96-140. Washington, DC: Georgetown University Press.
- Ross, John R. 1974. "Nouniness." in Osamu Fujimura (ed.) *Three Dimensions of Linguistic Theory*, 137-257. Tokyo: TEC.

- Sadock, Jerrold 1974. *Toward a Linguistic Theory of Speech Acts*. New York: Academic Press.
- Steinberg, Danny D. and Leon A. Jakobovits (eds.). 1971. *Semantics: An Interdisciplinary Reader in Philosophy, Linguistics and Psychology*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yamanashi, Masa-aki 1972. "Lexical Decomposition and Implied Proposition." in Paul Peranteau *et al.* (eds.) *Papers from the Eighth Regional Meeting of Chicago Linguistic Society*, 388-401, Chicago: Chicago Linguistic Society.
- Yamanashi, Masa-aki 1974. "On Minding Your P's and Q's in Japanese--A Case Study of Honorifics." in Anthony Bruck *et al.* (eds.) *Papers from the Ninth Regional Meeting of Chicago Linguistic Society*, 760-771, Chicago: Chicago Linguistic Society.
- Yamanashi, Masa-aki 1975a. "Where Do Conditional Expressions Qualify?: Functional Variability between Logical and Ordinary Language Conditionals," in Roger Fasold and Roger Shuy (eds.) *Analyzing Variation in Language*, 228-240. Washington, D.C.: Georgetown University Press.
- Yamanashi, Masa-aki 1975b. *Generative Semantic Studies of the Conceptual Nature of Predicates in English*. Ph.D. Dissertation, Department of Linguistics, University of Michigan.
- 山梨正明. 1977. 『生成意味論研究』東京：開拓社.
- 山梨正明. 1983. 「生成意味論」安井稔 他 (著)『意味論』(英語学大系 5), 337-466. 東京：大修館書店.
- 山梨正明 1986. 『発話行為』東京：大修館書店.
- Zwicky, Arnold *et al.* (eds.). 1971. *Studies Out in the Left Field: Defamatory Essays Presented to James D. McCawley*. Edmonton: Linguistic Research, Inc.
- Zwicky, Arnold and Jerrold M. Sadock. 1975. "Ambiguity Tests and How to Fail Them." in John Kimball (ed.) *Syntax and Semantics* 4, 1-36. New York: Academic Press,

<参考文献：科学哲学、関係>

- Feyerabend, Paul. 1975. *Against Method*. New York: Verso Books.
- Fillmore, C.J. 1979. "Innocence: A Second Idealization for Linguistics." *BLS* 5: 63-76.
- Fillmore, Charles J. 1984. "Some Thoughts on the Boundaries and Components of Linguistics," in Thomas G. Bever *et al.* (eds.) *Talking Minds: The Study of Language in Cognitive Science*, 73-108. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Goodman, Nelson. 1983. *Fact, Fiction, and Forecast*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Harris, Randy A. 1993. *The Linguistics Wars*. Oxford: Oxford University Press.
- Hanson, Norwood R. 1958. *Patterns of Discovery*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hesse, Mary B. 1963. *Models and Analogies in Science*. London: Sheed and Ward.
- Hempel, Carl G. 1966. *Philosophy of Natural Science*. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.
- Huck, Geoffrey J. and John A. Goldsmith 1995. *Ideology and Linguistic Theory*. London: Routledge.
- 今井邦彦 1981-1983. 「言語理論を考える (1)-(27)」Vol. 30、No. 3-Vol. 33、No. 8.
- 梶田 優 1977-1981. 「生成文法の思考法 (1)-(48)」、『英語青年』(研究社)、Vol. 123、No. 5-Vol. 127、No. 4.
- Kuhn, Thomas 1962. *The Structure of Scientific Revolutions*. Chicago: University of Chicago Press.
- Kuhn, Thomas 1970. *The Structure of Scientific Revolutions*. (2nd edition) Chicago: University of Chicago Press.
- Lakatos, Imre 1970. "Falsification and the Methodology of Scientific Research Programme." in Imre Lakatos and Alan Musgrave (eds.) *Criticism and the Growth of Knowledge*, 91-196. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakatos, Imre and Alan Musgrave (eds.) 1970. *Criticism and the Growth of Knowledge*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, George 1972. "The Arbitrary Basis of Transformational Grammar." *Language* 48 (1): 76-87.
- Lakoff, Robin 1989. "The Way We were, or the Real Actual Truth about Generative Semantics." *Journal of Pragmatics* 13 (4): 939-988.
- Levine, Robert D. and Paul M. Postal 2004. "A Corrupted Linguistics." In Peter Collier and David Horowitz (eds.) *The Anti-Chomsky Reader*, 203-231. San Francisco: Encounter Books.
- McCawley, James D. 1971. "Interpretive Semantics Meets Frankenstein." *Foundations of Language* 7: 285-296.
- Nagel, Ernest. 1961. *The Structure of Science*. New York: Harcourt, Brace & World.
- Newman, John 2004. "The Quiet Revolution: Ron Langacker's Fall Quarter 1977 Lectures." in Alina Kwiatkowska and Barbara Lewandowska-Tomaszczyk (eds.) *Imagery in Language: Festschrift in Honour of Professor Ronald W. Langacker*, 43-60. Frankfurt: Peter Lang.
- Newmeyer, Frederick J. 1996. *Generative Linguistics: A Historical Perspective*. London: Routledge.
- Popper, Karl R. 1963. *Conjectures and Refutations*. New York: Harper & Row.
- Postal, Paul M. 1972. "The Best Theory." in Stanley Peters (ed.) *Goals of Linguistic Theory*, 131-170. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall.

- Pullum, Geoffrey K. 1991. *The Great Eskimo Vocabulary Hoax*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Pullum, Geoffrey K. 1996. "Nostalgic Views from Building 20." *Journal of Linguistics* 32: 137-147.
- Robinson, Ian 1975. *The New Grammarian's Funeral*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Wilks, Yorick 1974. "One Small Head--Models and Theories." *Foundations of Language* 11: 77-95.
- 山梨正明 1998. 「認知言語学の研究プログラム」、『言語』(大修館書店) 27 (11): 20-29.
- 山梨正明 2001. 「ことばの科学の認知言語学的シナリオ」、『認知言語学論考』(ひつじ書房)、1: 1-28.
- 山梨正明 2002. 「言語科学における記述・説明の妥当性—認知言語学の視点からみた言語研究の展望」、『日本語文法』、2 (2): 3-28.
- 山梨正明 2003. 「科学哲学的な視点からみた認知言語学の展開--言語科学のフロンティア」、『英語青年』(研究社)、148 (11): 662-666.
- 山梨正明 2008. 「認知言語学の研究プログラムとその科学哲学的背景」、『英語青年』(研究社)、154 (3): 8-11、2008.

<参考文献：哲学関係>

- Austin, John L. 1962. *How to Do Things with Words*. Oxford: Oxford University Press.
- Dewey, John 1958. *Experience and Nature*. New York: Dover Publications.
- Fodor, Jerry A. 1975. *The Language of Thought*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Fodor, Jerry A. 1983. *The Modularity of Mind*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Grice, H. Paul 1975. "Logic and Conversation." Peter Cole and Jerry Morgan (eds.) *Syntax and Semantics*, 41-58. New York: Academic Press.
- Grice, H. Paul. 1978. "Further Notes on Logic and Conversation." In Peter Cole (ed.) *Syntax and Semantics*, 113-128. New York: Academic Press.
- Lewis, David. 1972. "General Semantics." In Donald Davidson and Gilbert Harman (eds.) *Semantics of Natural Language*, 169-218. Dordrecht-Holland: Reidel.
- Putnam, Hilary W. 1981. *Reason, Truth, and History*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Quine, Willard van Orman 1953. *From a Logical Point of View*. New York: Harper & Row.
- Searle, J. 1969. *Speech Acts*. London: Cambridge Univ. Pr.
- Wittgenstein, Ludwig 1957. *Philosophische Untersuchungen*. Frankfurt: Suhrkamp.

<参考文献：脳科学、等の関連分野>

- Arbib, Michael A. 1989. *The Metaphorical Brain 2: Neural Networks and Beyond*. New York: John Wiley and Sons.
- Crick, Francis 1994. *The Astonishing Hypothesis*. New York: Simon & Schuster.
- Damasio, Antonio R. 1994. *Descartes' Error*. New York: G.P. Putnam's Sons.
- Deacon, Terrence W. 1997. *The Symbolic Species*. New York: W.W. Norton.
- Dean, Paul D. 1992. *Grammar in Mind and Brain: Explorations in Cognitive Syntax*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Edelman, Gerald M. 1992. *Bright Air, Brilliant Fire--On the Matter of the Mind*. New York: Basic Books.
- Elman, Jeffrey L. 1993. "Learning and Development in Neural Networks: The Importance of Starting Small," *Cognition*, Vol.48, pp.71-99.
- Elman, Jeffrey L., Elizabeth A. Bates, Mark H. Johnson, Annette Karmiloff-Smith, Domenico Parisi, and Kim Plunkett 1996. *Rethinking Innateness: A Connectionist Perspective on Development*. Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Harris, Catherine L. 1991. *Parallel Distributed Processing Models and Metaphors for Language and Development*. Ph.D. Dissertation, University of California, San Diego.
- 乾 敏郎 1998. 「運動系列予測学習仮説」、『神経心理学』、14: 144-149.
- 川人光男・銅谷賢治・春野雅彦 2000. 「言語に迫るための条件」、『科学』70(5):381-387.
- 長尾 真 1996. 「〈言語の実際〉に即した理論とシステム」、『言語』、25 (4):28-35.
- Ramachandran, Vilaynur S. 2003. *The Emerging Mind*. London: Profile Books.
- Rosch, Eleanor H. 1973. "Natural Categories." *Cognitive Psychology* 4: 328-350.
- Rumelhart, David E. and James L. McClelland 1986. (ed.) *Parallel Distributed Processing: Explorations in the Microstructure of Cognition*. Vol.1, Cambridge, Mass.: The MIT Press.
- Savage-Rumbaugh, Sue and Roger Lewin 1994. *KANZI: The Ape at the Brink of the Human Mind*. New York: Brockman.
- Skinner, Burrhus F. 1957. *Verbal Behavior*. New York: Prentice-Hall.
- Rumelhart, David E. and James L. McClelland 1986. (ed.) *Parallel Distributed Processing: Explorations in the Microstructure of Cognition*. Vol.1, Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Varela, Francisco J., Evan Thompson, and Eleanor H. Rosch 1991. *The Embodied Mind: Cognitive Science*

<参考文献：言語習得>

- Achard, Michel, and Susanne Niemeier (eds.) 2004. *Cognitive Linguistics, Second Language Acquisition, and Foreign Language Teaching*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter.
- Bruner, Jerome S. 1975. "From Communication to Language." *Cognition* 3: 255-287.
- Dabrowska, Ewa 1997. "The LAD Goes to School: A Cautionary Tale for Nativists." *Linguistics* 35: 735-766.
- 児玉一宏・野澤 元 2009. 『言語習得と用法基盤モデル』 東京：研究社.
- 黒田 航 1998. 「言語習得への認知言語学からのアプローチ」、『言語』、27 (11): 38-45.
- Langacker, Ronald W. 2008. "Cognitive Grammar as a Basis for Language Instruction. In Peter Robinson and Nick C. Ellis (eds.) 2008. *Handbook of Cognitive Linguistics and Second Language Acquisition*. 66-88. London: Routledge.
- Mandler, Jean M. 2004. *The Foundations of Mind*. Oxford: Oxford University Press.
- McCawley, James D. 1977. "Acquisition Models as Models of Acquisition." in Ralph W. Fasold and Roger W. Shuy (eds.) *Studies in Language Variation*. pp.51-64. Washington, D.C.: Georgetown University Press.
- Piaget, Jean 1972. *Problèmes de psychologie génétique*. Paris: Éditions Denoël.
- Slobin, Dan I. 1981. "The Origins of Grammatical Encoding of Events." in Werner Deutsch (ed.) *The Child's Construction of Language*, 185-199. New York: Academic Press.
- Tomasello, Michael 1995. "Language is Not an Instinct." *Cognitive Development* 10: 131-156.
- Tomasello, Michael 2003. *Constructing a Language*. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Tomasello, Michael 2000. "First Steps toward a Usage-based Theory of Language Acquisition." *Cognitive Linguistic* 11: 61-82.
- Wallon, Henri 1942. *De l'acte à la pensée*. Paris: Flammarion.
- Werner, Heinz and Bernard Kaplan 1963. *Symbol Formation*. Hillsdale, N.J.: Lawrence Erlbaum.
- 山梨正明 2001. 「モジュール仮説に基づく言語習得仮説の本質的問題」、『ベビーサイエンス』、1: 20-21.
- Yamanashi, Masa-aki 2002. "Cognitive Perspectives on Language Acquisition." *Studies in Language Sciences*, 2: 107-116.
- 山梨正明 2003a. 「日本語教育と認知言語学」、『日本語教育』、116: 133-134.
- 山梨正明 2003b. 「言語習得と認知言語学--認知科学の関連領域からの展望」、『日本認知言語学会論文集』、3: 282-284.
- 山梨正明 2006. 「言語の発生をめぐって--その起源・進化・獲得」、『関西言語学会論文集』、26: 358-361.
- 山梨正明 2007. 「言語習得への認知言語学的アプローチ」、『第二言語としての日本語の習得研究』、10: 122-129.